

あ　こ　う 赤穂が　いいね。



12月14日 赤穂義士祭

播州赤穂といえは忠臣蔵。義士の史跡をのこす五万三千石の城下町をたずねて元禄の義挙をしのび、絶景の海岸美をほこる瀬戸内海国立公園赤穂御崎の自然を求めて、ぜひ、播州赤穂への旅を。



発行人

〒104-0052

東京都中央区月島3-15-9

全義連事務局

TEL 048-973-3777

編集者 中島康夫

ホームページ

忠臣蔵会館

出版・校正・協力

テレビ制作協力

講演・史跡案内

<http://www.chuushingura.net/>

赤穂に住もう

転入者定住支援金交付事業 あります。赤穂市(代) 0791 (43) 6857

平成二十七年十月十八日
「易水連袂録」
中央義士会で再版

「第二回東京あこうのつどい」参会記

中央義士会 三輪二郎

「東京あこうのつどい」が去る八月七日(金)、午後六時三十分からホテルニューオータニで開催された。

東京(関東地区)で活躍しておられる赤穂市ゆかりの人々がつどい、赤穂市の皆さんと意見交換を通じて文化、スポーツ振興等市の一層の活性化とにぎわいあるまちづくりを推進しようというのが目的で、昨年につづいて第二回目であった。

主催者の赤穂市からは明石市長、尾上教育長、家人市議会議長ら市幹部も多数出席され総勢百名の盛会であった。我が中央義士会からは「赤穂市観光大使」の中島理事長をはじめ会員九名が参加した。

会は明石市長の挨拶に始まり、赤穂市の現況、事業、市の有名企業のPR等、変わったところではマラソン大会(第五回赤穂シティマラソン 十一月八日)、ル・ポン国際音楽祭(十月二十三〜二十九日)の紹介まであった。

懇親会が始まると赤穂義士を模したマスコットキャラクター『陣たくん』、二〇一五年度ミス日本らの登場もあって会場は一層盛り上がった。

午後八時三十分、中央義士会中島理事長発声の万歳三唱によって会は無事お開きとなった。

播州赤穂城主浅野内匠頭が参勤交代で江戸在勤中、吉良上野介の悪口雑言に耐えかねて、無念の最期を遂げたのは今から三百年余りまえ。当時は赤穂→江戸は百六十里(六〇〇km余)の道のりに半月もかかる長旅の時代。今なら播州赤穂から東京まで新幹線に乗れば四時間あまりで、あつという間に着いてしまう時代になった。

あの勅使御馳走役を今回の東京あこうのつどいに擬するつもりは毛頭ありませんが、改めて『東京あこうのつどい』のますますの御盛会を心から祈る次第である。

最後に一言。『赤穂市』あこうといえは我々忠臣蔵愛好家でなくとも日本人なら誰しも、まず頭に浮かぶのは元禄赤穂事件『忠臣蔵』のはずです。来年からのこの会には忠臣蔵関連ニュースメニューも必ず入れていただきたい。



会場にて 中央：明石市長、右端：尾上教育長

新

播州赤穂浪士
大石内蔵助良雄

蔵ちゃんTシャツ
3,240 円(税込)

070-6969-4493
販売元 赤レンガ舎

第七十回月一勉強会の報告

中央義士会 荻原 栄

平成二十七年七月十二日に第七十回月一勉強会が行われた。出席者は三十名で、当会の永年会員でもある仙石伯耆守の御子孫大内満利子さんも出席された記念の会となった。

今回の勉強会では、NHKが昨年一月十四日に放映した、「ザ・プレミアムよみがえる江戸城」の松之廊下事件に関する部分の検証を行った。

この番組は、江戸城の内部を、東京都中央図書館と東京国立博物館の史料とを駆使して、CGで江戸城を再現した大がかりで、かつ史料に忠実な番組であった。

しかし、その中におよそ二十五分間、浅野内匠頭の刃傷事件を扱った部分が挿入されていたが、それは全く史料を無視した稚拙なものに出来上がった。今回の勉強会は、その、松之廊下事件の部分ビデオを拝見しながら、史料に基づくどのようなものであったかを検証した。



ビデオを見ながらの講義

最初に、中島理事長より、本件に関して、既に二回NHKに抗議をしているにも関わらず、何の反応もないこと、そのため、国会議員を通してNHKに抗議していることが説明された。

松之廊下事件の部分について、ビデオを見ながら次の検証が行われた。

(一) 松之廊下が暗いと主張していた。

番組では、障子の部分まで無理に、舞良戸(板戸)と同じ暗さにしている。障子(紙)は光を通すはずである。考えられない設定にしている。

(二) 儀式の責任者が吉良上野介。

二月四日に幕命により浅野が勅使接待役を拝命している。吉良は単なる指導役である。

(三) 松之廊下の人員配置が支離滅裂。

「梶川與惣兵衛日記」の三月十四日の部分を、読み込んでいない先生の指導を受けたのか、松之廊下の人の配置が支離滅裂になっている。

(四) 切り付けた刀が小刀で三十センチ程度としている。

江戸城の儀式の時、大名は「小^{ちひ}さ刀」という儀式用の刀を一本差していた。小刀ではなく小^{ちひ}さ刀で、長さは五十センチ以上あった。これも江戸時代の歴史の常識である。

(五) 浅野が吉良に気づかず近寄って切り付けられたのは、廊下が暗かったから。

明らかに浅野が近寄ってくるのが分かり、逃げられてしまうことを、剣道場で模擬していた。吉良は後方の高家衆の方を向いて、浅野の悪口を言っていたことと、浅野が吉良の近くに座っていたために、簡単に、しかも後から切り付けられたのである。

(六) 当日の天気。

わざわざ、江戸時代の天気を研究している学者に、三月十四日の天気図まで書かせて、江戸の天気を推定していた。当時の多くの日記に、江戸の天気は書かれている。当日は曇りであることは、例えば、「隆光僧止の日記」を見れば直ぐに分かる。これはプロデューサーの無知である。

などこれらから見えてくるのは、番組のプロデューサーが、全くの素人考えで、松之廊下を暗くして、その暗さを利用して、浅野が吉良を襲ったかのような、稚拙無知の考えに基づく番組づくりである。視聴者は天下のNHKが東大の先生の指導で制作した番組を疑いもしないであろう。恐ろしいことである。国民から視聴料を集め、これほど事実と反した番組を作ることが許されている。

今度の番組を拝見して、忠臣蔵(元禄事件)に関しては、東大の先生より中央義士会の方が進んでいる事を確信したと、中島理事長は締めくくった。



前列中央が仙石伯耆守の御子孫大内さん
前列椅子の右端が勝田新左衛門の御子孫勝田さん
前列左から二人目が堀部安兵衛の御子孫長井さん

不浄門とびついの平川門

— 浅野内匠頭は帯曲輪から竹橋に出た？

— それとも船で日比谷まで行った？ —

中央義士会 荻原 栄

今年の九月二十六日付朝日新聞朝刊に「平川御門不浄門 大事件の数々くぐる」と題した記事が掲載された。筆者は建築家・画家 木下栄三氏である。記事は次のようなもの。一部抜粋。

「吉良上野介に切りつけた浅野内匠頭長矩は「不浄門」と言われる平川御門から駕籠に乗せられ城を出たという。

「不浄門」が平川御門全体を指すのか、枳形内の帯曲輪門を指すのかは今も謎である。帯曲輪門すぐ脇の階段を下りて船で日比谷方面に向かったのか、帯曲輪突き当たりの竹橋まで行ったのかもわかっていない」。

おそらく筆者の木下氏は、元禄赤穂事件に関する江戸時代の史料を読んでいないために、このような見解になったものと思われる。この不浄門としての平川門に関しての認識は、江戸時代史に興味を持って勉強されている方々の、共通したものであると思うので、ここで間違いを正しておきたい。

元禄十四年三月十四日の松之廊下事件当日、浅野

内匠頭を預かったのが、奥州一関の田村家である。

田村家はこの時、奏者番で、たまたま当日、江戸城に残っていたために、内匠頭を受け取るよう幕府から命じられた。田村家は直ちに総勢七十名を越える受取人数を江戸城へ送った。受取の駕籠は江戸城に入り、中ノ口から坊主部屋の前まで行き、そこで内匠頭を受取った。駕籠以外の人数は桜田門の下馬で待機。駕籠は江戸城の中を通り、平川門を出て田村家上屋敷に向かったのである。

田村家ではこの時のことを幾つかの史料に書き残している。「御用留書抜」「一関藩家中長岡七郎兵衛記録」「一関藩家中北郷李助手控」等である。これらの史料は赤穂市発行の「忠臣蔵第三巻」に載っている。誰でも読めるようになっていく。

この内「一関藩家中長岡七郎兵衛記録」に次のようにある。

「平川口へ出候様にと被申聞候 則案内の儀何も願候へば御小人目付先へ立ち候由」。

田村家の家来が浅野内匠頭を受取に来て、江戸城中の坊主部屋の前で、内匠頭を受取。それから御小人目付に先導されて平川口へ出ている。

さらに「足軽其外人馬下馬に差置候 平川口へ廻り候様仕度の由申達候処 其段御小人を以て被申遣候内を参り候間に足軽共平川口へ参り罷在候由」。

足軽などを桜田門の下馬に留めておいたが、平川口へ廻るよう御小人目付が連絡し、駕籠が江戸城内を通っている間に平川口に着いていた、というのである。

また「道筋平川口より大下馬先前八代洲がし日比

谷御門桜田愛宕下通此方裏門へ申の刻入申候」。

内匠頭を乗せた駕籠は、平川口から大手門大下馬先の前を通り、八代洲がし（今の馬場先濠）沿いの道を進み、日比谷御門から桜田門前へ、それから愛宕下から田村家上屋敷の裏門に申の刻（今の午後四時ころ）に入ったのである。

つまり、内匠頭を乗せた駕籠は、江戸城内を通って平川門から直ぐの橋を渡り、平川口に出たのである。

また、斬られた方の吉良上野介も、平川門から平川口を出て、大手門前を通らずに大回りして呉服橋の上屋敷へ帰っている。大回りしたのは、大手門やその近くにある伝奏屋敷には、まだ、浅野家の家来がいると思われたために、そこを避けたのである。

ここで平川口とはどこを指すのかだが、東京都立中央図書館所蔵の「享保年間江戸城図」に、平川門を出て直接お堀の橋を渡った所が「平川口」とあり、帯曲輪を通った先のお堀を渡った所は「竹橋」とある。この絵図は東京都中央図書館のホームページにアクセスすれば、誰でも閲覧できる。

内匠頭が帯曲輪を通ったのであれば、田村家の家来達は「竹橋」で待ち合わせとならなければならぬが、田村家の史料では、平川口となっており、竹橋ではない。また、駕籠は七十名を越える田村家家来に護衛されて陸路を行っており、船では移動していない。

不浄門としての平川門は、その一部ではなく、門全体が不浄門として使用されたことがこれでわかる。

大石内蔵助ら切腹の原図新出

東洋大学名誉教授 大野瑞男

はじめに

元禄十四年（一七〇一）三月十四日、勅使馳走役播磨赤穂藩主浅野内匠頭長矩が江戸城松之廊下で高家筆頭吉良上野介義央に斬りつけ、領地は没収、浅野家は改易、長矩は即日切腹となった。翌十五年十二月十五日早暁赤穂浪士四十七人が本所一ツ目の吉良邸に討ち入り義央を殺害、浅野家菩提寺泉岳寺に引き揚げ、その後幕府に自訴し、引き揚げのさいに姿を消した足軽寺坂吉右衛門を除く四十六人が、肥後熊本藩細川家に十七人、伊予松山藩松平家に十人、長門府中藩毛利家に十人、三河岡崎藩水野家に九人に分けて預けられた。彼らの処分をめぐり幕府内は紛糾したが、結局武士の礼をもって切腹とされた。元禄十六年二月四日、四十六人は頂け置かれ四家の江戸屋敷で切腹し、浪士たちの遺体は泉岳寺に葬られた。この赤穂事件は誰もが知る有名な事件である。この事件を題材にした戯曲『仮名手本忠臣蔵』についての絵は多く残されているが、実録の絵図は極めて少ない。

さて細川家には白金中屋敷に大石内蔵助良雄ら十七人と最も多い人数を頂けられたが、その切腹の図はいくつか残されている。本稿は筆者所蔵の図を紹介し、それが従来知られているすべての切腹の図の原図であることを考証するものである。

一 従来知られている大石内蔵助切腹の図

従来図録などで知られているものに、安場保雅氏所蔵「大石内蔵助良雄切腹之図」（縦六〇・五×横九七cm）がある。安場氏は大石内蔵助を介錯した安場一平の子孫で、その介錯刀一口も所蔵する。描かれた人数は六十八人である。

細川家の財団法人永青文庫には、「義士切腹之図」（縦五九・八×横九九・八cm）が所蔵されている。垣塚文兵衛による文化二年（一八〇五）の跋文があり、切腹を見聞した右田才助が描きとった図を友人から借りて写したとある。安政二年（一八五五）鶴鳴老人の跋文では画工に命じて写させたとあり、彩色の施された絵になったのはその時であると思われる。この図にも前図と同じ六十八人が描かれている。

同文庫には他の一巻があり、熊本藩抱え絵師赤星閑意が明治十五年（一八八二）に写したものである。また兵庫県立歴史博物館所蔵の「大石内蔵助切腹之図」（縦五七・五×横一〇八cm）があり、古書店から購入した由で、画家は樵僊という人物である。これには「天保八丁酉（一八三七）夏六月真玄喬松記」の文書が付属している。この図に描かれた人数は六十七人と家老側衆が一人少ない。

以上の図はいずれも極めて類似した図であり、左

側に検使が座し、大石内蔵助を中心にしてその左斜め前から描いている。次の切腹者吉田忠左衛門が白幕の向こうを歩き、他の十五人が役者之御間に控え、杉戸の内より細川綱利が観ている。安場氏の図は彼らの順番・氏名・年齢、永青文庫の絵は氏名・順番、兵庫県立博物館の図は氏名のみが記されている。跋文などで知る限り、その成立は最も古い永青文庫の図でも文化二年であり（彩色を施したのは安政二年と更に遅い）、すべて画家の描く極彩色のものである。そして色の使い方は異なるが、図中の人数の服装から顔の向きまで同じで、元は一つと思われる。

以上は肉筆画であるが、国立公文書館内閣文庫には印刷・出版されたものではあるものの「大石内蔵助等賜死之真図」（縦五一×横七九cm）が所蔵されている。これは東京府芝区愛宕下寄留の柴田又八が明治二十二年一月に印刷・出版したものである。画家桜塘が古図を摸写したもので、七行の跋文が付いている。図柄は前の三図と同様でそのいずれかを元にしたのであろう。跋文の要旨は、大石内蔵助らが元禄十五年十二月十五日深夜本懐を遂げ、幕府に訴えて割腹と決まり、翌二月細川越中守の白金中屋敷で執行された。細川家臣某（右田才助のこと）が深く義士の忠誠を慕い、武士の鑑として子孫に伝えようと、密かに切腹の儀式の場を垣間見て自ら写し置かれたものを、世に珍しい図として今度出版することとした。細川家は主謀大石らを託せられたのはこよなき家の面目と喜び、その取扱いは頗る懇ろを極めたという。

二 新出の義士切腹の図

これに対し、ここに紹介する図は、筆者の父大野慎の旧蔵で現在は私が所蔵している。昨年遺品を整理して発見したものであり、縦三八×横五四センチの大きさの薄様の紙に描かれた彩色画で、まず縦に二つ折、横二つ折、また縦四つ折とされ、上包みには「細川家御預義士切腹之畧図一枚」と書かれ、本紙の端に「細川家御預義士十七人切腹之畧図」と題されている。右上には「元禄十六年二月四日御預り十七人ノ者何レモ切腹被仰付四ツ時過ヨリ七ツ半時過キニ終ル」と書かれ、大書院の屏風の前に上使目付と検使使番が座し、庭には畳の上に白風呂敷を敷き次の切腹者吉田忠左衛門が座している。大石内蔵助はすでに切腹し終わって運ばれており、三人目の原惣右衛門が小姓組二人や介錯人と畳敷きの通路を歩いている。

前項に記した各図が大石内蔵助切腹の場面を左斜め前から描いているのに対し、この図は平面的な見取り図式に描かれている。下部に能舞台があり、右端の「坐敷ノ内十七人之者」と記された座敷は役者之御間であり、先の三人を除く十四人の義士が描かれている。その前の廊下には介錯人が控えている。大書院の座敷と廊下にはほかに細川家家来側衆と御歩目付が控え、廊下下の畳の上には作事奉行・留守居・小姓頭・家来側衆が座っている。上下を着けていない七人は他の図から御小人目付と判る。この中右の方作事奉行の並びに「右田」が座しているのが認められる。勝手口には詰人二人と坊主があり、出口には物頭役関惣右衛門が腰掛け、その外に歩御使二人と足軽四人がいる。足軽は畳を敷き替え風呂敷の上に張り、砂を時き掃除をしている。井戸の傍らに畳と風呂敷が準備され、泉水には橋が架けられている。この図に描かれた人数は大石を含

め七十一人を数える。

なお義士切腹に際し細川家に派遣された幕府検使は使番久永内記重利、上使は荒木十左衛門政羽で、荒木は赤穂所領の没収にも当たっているが、この図には役職・氏名は書かれていない。

この図に跋文があり「此本書ハ右田才助自画 妙応院様御代元禄年中才助御駕役相勤義士切腹ノ節出勤ノ由、本書ハ右田紫山老人所持ナリ、但シ享和二年正月十三日右田九十九宅類焼ノ節本書ハ焼失ス、右模シ同姓七郎所持ナリ」と記されている。すなわちこの跋文によれば、この絵図は細川家家中の右田才助の自画で、妙応院すなわち細川綱利の時代御駕役を勤めて義士切腹の節出勤し、その様子を自ら描いたもので、その子孫と思われる右田紫山老人が所持していたが、享和二年（一八〇三）正月十三日右田九十九宅が類焼した時本書は焼失した。しかし焼失以前に模写したものを右田七郎が所持しており、それがこの図であると理解される。そして何らかの経路を経て亡父の購入するところとなったが、今はその事情を知る術もない。

この図と同じ平面的な絵に、鍋田晶山『赤穂義人纂書』第一（国書刊行会、一九一〇年）の付図の「義士十七人於肥後侯亭割腹検使之図」がある。薄い青・黄・緑・茶色が着いていて、文化十三年（一八一六）十一月十五日飯岡義章誌とある。本図の説明には、右田才助（御奉行所物書）ひそかにその場の全体を視、上検使より下卒徒の吏に至るまで排列階級を混ぜず審らかに警衛諸士の多少を弁別し、およそ目に触れる所の者悉くこれを暗記し、事終わるに及び慷慨の志を発し、直に真を写し秘して家笈に納め、永く子孫に伝え百年になる。しかるにこの画面は堀部氏真（堀部弥兵衛金丸六代藤馬）の要請により当

代右田才助の前代が模する古図を臨写して贈るといふ。飯岡は氏真に親しみこの一図を示される。氏真これを写すことを許され、永く子孫に赤心報国の模範にせんとしたとある。校訂者難波常雄の識に、纂書原本に載せるものは彩色を施さず、別に天保十一年（一八四〇）八月磐城藩鍋田氏の借り示す図を和田数馬をして蔵せりと記す。人数は六十九人と二人少ない。

この記事からも判るように「赤穂義人纂書」の付図は明らかに筆者所蔵「細川家御預義士十七人切腹之畧図」の写しである。

結びにかえて

結論は極めて明快である。赤穂義士の切腹に際し細川家家臣右田才助が義士らを忠義の鑑として子孫に伝えようとし、義士や家臣らの位置、並びや服装等を暗記し、終わると直ちに図を描き秘蔵していたが、享和二年の火事で焼失した。しかしそれ以前に写したものが「細川家御預義士十七人切腹之畧図」であり、他の切腹の図はすべてこれを元に描いたり写したものである。「日本歴史」二〇〇八年十二月

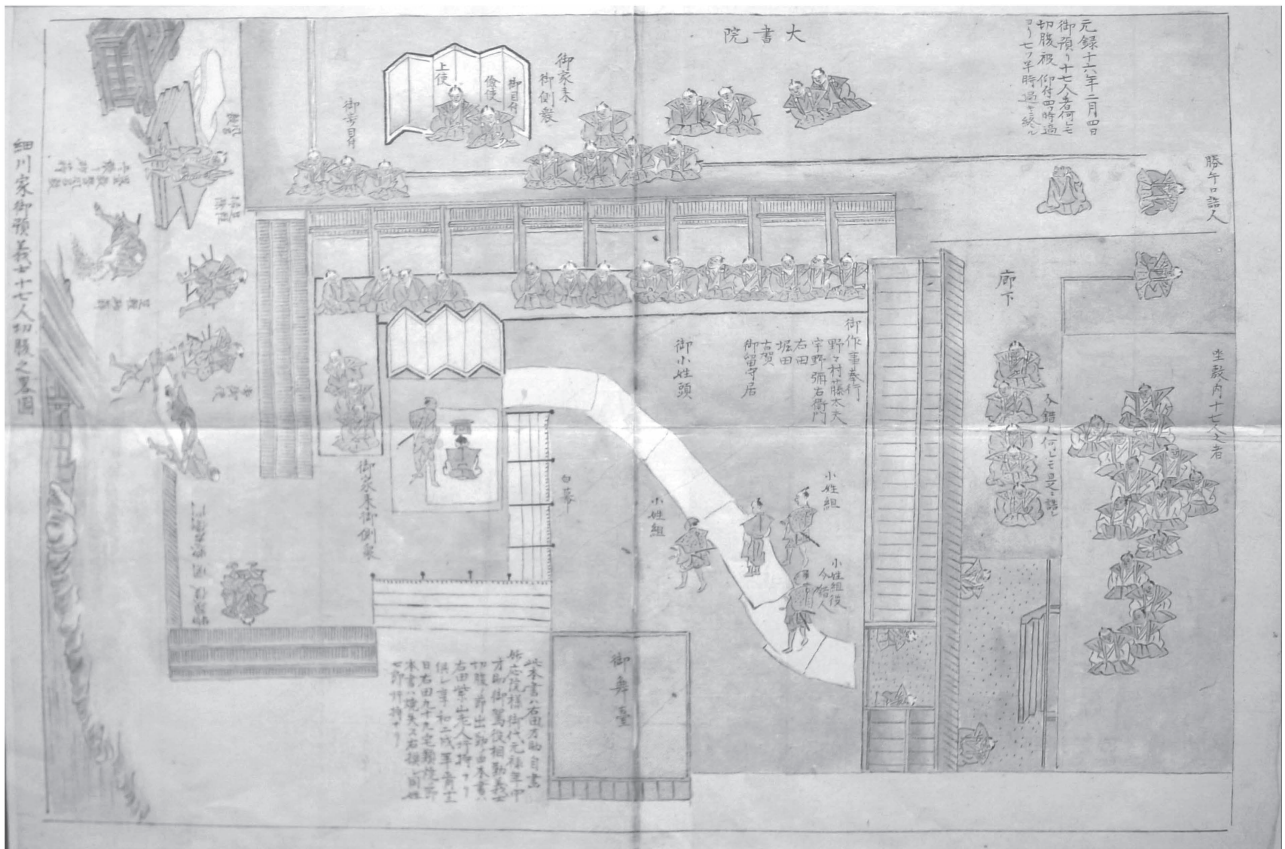
忠臣蔵 一〇番
忠臣蔵に関する事なら
遠慮なくお電話下さい

080-8908-1633

越中守儀、兼而奉重 公儀、毎度参勤之節は、國許にて、御當地江發足仕而は、當屋敷に而、上下の侍共不残呼出、直に申聞候は、公儀御代々御重恩、就中越中守は幼少より大國を御預被置、家中之者上下共に妻子相育申候、公儀之御恩と奉存候様に、道中船中在江戸共に、御法度之趣堅相守候様に、常々申付候故、今度御預り之儀は、別而入念候様にと、家老共に度々申渡候、然處に私心底には、無雙の忠臣共と奉存、何れも存生之内、母兄弟息災成る事知せ申度、在所承候へは、中々不申聞候故、越中守為にならぬ儀は、可被申聞様も無之候、私之為いかと被存儀は、毛頭遠慮被仕間敷候、日本の大小神祇を奉懸身命を惜み不申承度と、切々申候故、何も歎委細咄被申、承候而、いかにも通し申候、御吟味にて、唯今罷出候へと、兼て 越中守念を入申儀を背き申たと奉存候へは、私儀は不忠罷成候、此段不及是非奉存候、此外別に申上候儀、少も無御座候、以上、

堀内伝右衛門

堀内伝右衛門の懐中口上書之覚



大野瑞男氏蔵の原図

第 12 回 忠臣蔵通 2 級 検定 試験 問題

[申込方法]

・ 解答用紙の請求

検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX 番号並びに、第 12 回 2 級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛て FAX または郵送でお送り下さい。FAX をお持ちの方は、できるだけ FAX でお願い致します。また、メールでも受け付けております。折り返し解答用紙をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡 1-17-1-403

NPO 法人 忠臣蔵倶楽部

TEL/FAX 03-3630-1927

メール office@chuushingura.jp

・ 受験料と振込先

2 級の受験料は 2000 円です。振り込みで受験申込となります。

郵便局の青色の払込取扱票で下記へお振り込みください。

NPO 法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038

払込取扱票の通信欄に「第 12 回 2 級試験申し込み」と記入下さい。

複数名を 1 枚の払込取扱票で申し込まれる場合は、受験者全員のお名前を通信欄に記入下さい。

払込料金をご負担をお願いしております。

[解答の送付]

- ・ 解答は FAX で下記へお送りください。郵送の場合は、下記の中央義士会事務局へお送りください。メールでは受け付けておりませんのでご注意ください。

FAX 048-973-3790

宛先 〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 58-12

中央義士会事務局

- ・ 可否は 11 月になってからお知らせ致します。

[注意事項]

- ・ 合格点は 80 点です。24 問以上正解で合格となります。
- ・ ご自宅で資料を調べて解答していただいて結構です。
- ・ 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- ・ 記入問題については、解答用紙以外に別紙を添付していただいても結構です。
- ・ 受験料は締め切りの 1 ヶ月前までにお納め下さい。
- ・ 最終提出日は、平成 28 年 10 月末日です。

平成 27 年 1 2 月

第 1 問	元禄 14 年 3 月 14 日の天候が、陰天であることは「隆光日記」に示されていますが、他に天候を示している史料名を挙げて下さい。
第 2 問	元禄 14 年 3 月 14 日の松之廊下事件が起きてから、浅野内匠頭を預かったのは田村家ですが、吉良上野介を預かったのはどなたでしょうか。
第 3 問	元禄 14 年 2 月 14 日に、浅野内匠頭は御馳走人を拝命しますが、この日の天候はどれでしょうか。 ①雨 ②晴れ ③陰天 ④雪
第 4 問	大石内蔵助の元禄 15 年 1 2 月 13 日の書状に「若老中」と書いてありますが、他にも「若老中」と示してある史料があれば挙げて下さい。
第 5 問	あなたは、この大石内蔵助を尾行するように命じている若老中は、どなただと思いますか。思い当たる方の名を挙げて下さい。
第 6 問	第 5 問で、あなたが思い当たる方を挙げた理由を示して下さい。
第 7 問	田村邸で、浅野内匠頭は介錯に失敗され、肩口に傷を受けますが、それを目撃して、落合与左衛門に報告した方はどなたでしょうか。
第 8 問	赤穂義士は、元禄 16 年 2 月 4 日に大名 4 家で切腹を命ぜられますが、この日の天候はなんだったでしょうか。
第 9 問	下記に脱盟者を 4 名挙げましたが、名前が間違っている人が 1 名おります。どなたでしょうか。 ①毛利小平太 ②矢野為助 ③鈴木十八 ④平野半平
第 10 問	討入りの際「がندوق」を 1 つ持参しますが、何のために持参したのでしょうか。

第 22 問	よく史学の先生がご自分の出版で、最後に「その事件の原因はよくわかっていない」と締めくくることがよくありますが、よくわかっていないのは著者自身だと思います。あなたはどのように思いますか。 ①その通り ②著者の勉強不足 ③出版社の失態でもある
第 23 問	義士たちが、討入りに使ってきたとされる「梓弓（あずさゆみ）」について簡単に説明して下さい。
第 24 問	伝正寺に義士人形がありますが、その素材は何でできているのでしょうか。 ①木材 ②紙 ③土 ④竹
第 25 問	浅野家本家最後の当主、浅野長勲夫妻の大理石像（5 m 丈）が建っているお寺の名前を書いて下さい。
第 26 問	「佐藤條右衛門覚書」などの史料が発見されて、よく考えると、浪曲「俵屋玄蕃」のモデルがいたようにも思えます。それはどなたでしょうか。
第 27 問	「易水連袂録」の一番の特徴はなんでしょうか。
第 28 問	江戸時代の乱心という表現は、現在の統合失調症のことを意味しているのでしょうか。思う処を書いて下さい。（ただし、元禄時代に精神科医はいなかったとの前提です）
第 29 問	近年「元禄赤穂事件」のことをNHKの番組の中でもテロという司会者もおります。勿論、一般の方の中にもテロという方がおられます。なぜ人々はテロと言いだめたのでしょうか。
第 30 問	赤穂浅野家安泰の頃、浅野内匠頭と弟大学の関係はうまくいっていたのでしょうか。

- なるべく期限ギリギリまで努力してご提出下さい。
- 答えが不明の問題もございます。その場合、不明もしくは不知と書いて下さい。
- 文章で答える問題はなるべく短く簡潔にお答え下さい。解答にならない分かりきっていることは書かないのがコツです。
- 採点が△印の場合もありますが、その場合は△が2つで1問正解とします。
- 中央義士会の過去の出版物でも誤記はありますので充分確認の上、解答して下さい。

今期中に出版された「忠臣蔵」関係新刊本

書名	編著者	発行所	価格
外伝元禄忠臣蔵 その時人々は動いた	都村光男著	本の泉社	1,404円
NHKDVD 大河ドラマ 元禄繚乱 完全版 第壹集	NHK	NHKエンタープライズ	19,440円
NHKDVD 大河ドラマ 元禄繚乱 完全版 第貳集	NHK	NHKエンタープライズ	19,440円
NHKDVD 大河ドラマ 元禄繚乱 総集編	NHK	NHKエンタープライズ	8,424円
知識ゼロからの忠臣蔵入門	山本博文著	幻冬舎	1,404円
吉右衛門の戀	佐々木 衛著	創英社/三省堂書店	1,836円
男の隠れ家 2015年1月号 -江戸の美人-	プラネットライツ編	三栄書房	680円
歌川国貞の忠臣蔵浮世絵	赤穂市立歴史博物館編	赤穂市立歴史博物館	1,300円
週刊 歴史ドキュメント 刻一刻 No.4 忠臣蔵前篇	デアゴスティーニ・ジャパン編	デアゴスティーニ	615円
洋泉社MOOK 別冊歴史REAL 日本刀と侍	阿部一紀ほか執筆	洋泉社	1,026円
週刊 歴史ドキュメント 刻一刻 No.6 忠臣蔵後篇	デアゴスティーニ・ジャパン編	デアゴスティーニ	615円
笑う忠臣蔵 -女子大生桜川東子の推理-	鯨 統一郎著	光文社(光文社文庫)	626円
地方自治ジャーナルブックレット No.66 平成忠臣蔵 -泉岳寺景観の危機-	吉田朱音・牟田賢明ほか著	公人の友社	864円
歴史人 2015年3月号 特集・大江戸八百八町の事件帳	歴史人編集部編	KKベストセラーズ	700円
日本の春画・艶本研究	石上阿希著	平凡社	7,020円
新版日本の伝統芸能はおもしろい 市川染五郎と歌舞伎を観よう	市川染五郎監修、小野幸恵著	岩崎書店	3,240円
明治・大正の広告メディア -正月用引札が語るもの-	熊倉一紗著	吉川弘文館	2,592円
週刊 日本の城 No.66	デアゴスティーニ・ジャパン編	デアゴスティーニ	607円
吉良忠臣蔵 上・下	森村誠一著	KADOKAWA(角川文庫)	各604円
幸四郎的奇跡のはなし	松本幸四郎著	新潮社(新潮文庫)	637円
本当は怖い京都の話	倉松知さと著	彩図社(彩図社文庫)	700円
坂東三津五郎 歌舞伎の愉しみ	坂東三津五郎著、長谷部浩編	岩波書店(岩波現代文庫)	1,447円
日本歴史叢書71 広島藩	土井作治著	吉川弘文館	3,456円
別冊宝島2357 新しい日本史	日本歴史学会編著	宝島社	864円
江戸城のインテリア -本丸御殿を歩く-	小粥祐子著	河出書房新社(河出ブックス)	1,728円
赤穂義士会所蔵 忠臣蔵の浮世絵	赤穂義士会編	赤穂義士会	500円
神社でたどる「江戸・東京」歴史散歩	戸部民夫著	洋泉社(歴史新書)	1,070円
元禄赤穂事件の記録	中島康夫	NPO法人 忠臣蔵倶楽部	2200円
大石内蔵助ら切腹の地	中島康夫	中央義士会	1000円

- ・市販されていない著書もございます。・一部、再版の冊子も載せております。
- ・その他、ほんの一部だけ元禄事件を扱っている出版物で除外している著書もございます。
- ・この一年間で、この他に出版された忠臣蔵物、あるいは元禄事件関係の書物をご存じの方は、ご教授下さい。
- ・本頁に関して、赤穂市教育委員会生涯学習課小野真一氏の協力を得ました。

全国義士会連合会

1. 赤穂義士会	〒678-0233 兵庫県赤穂市加里屋中州3-57 赤穂市史編纂室内	電話 0791-43-6848
2. 赤穂義士顕彰会	〒678-0235 兵庫県赤穂市上飯屋130 大石神社内	電話 0791-42-2054
3. 京都山科義士会	〒607-8308 京都府京都市山科区西野山桜ノ馬場町117 大石神社内	電話 075-581-5645
4. 京都義士会	〒606-8353 京都府京都市左京区仁王門通東大路東入ル 北門前町 本妙寺内	電話 075-771-2244
5. 大阪義士会	〒543-0074 大阪府天王寺区六万休町1-21 吉祥寺内	電話 06-6771-4451
6. 北海道義士会	〒073-0106 北海道砂川市空知太444の2 北泉岳寺内	電話 0125-53-3513
7. 笠間義士会	〒309-1611 茨城県笠間市笠間324 真浄寺内	電話 0296-72-0090
8. NPO法人 忠臣蔵倶楽部	〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-404	電話 03-3630-1927
9. 中央義士会	〒104-0052 東京都中央区月島3-15-10	電話 048-973-3777